

思い出深いその日のために—

法要のご案内

 安ぜん軒 花屋 夕風亭

海を眺めながら、故人を偲ぶ
心づくしのご法要を——



ご法要は、私たちの生活の中で欠かせない大切な行事です。故人を偲び、ほのかなやさしさとともに心をかよわせるなごやかなひとときを、丹精込めた料理とまごころのおもてなしでゆっくりとおくつろぎいただけます。

法要・法宴のつどい

中陰・忌中の過ごし方

「中陰」とは一般に仏教では四十九日の忌明け法要までを言います。遺族はこの期間、結婚式などのお祝いごとへの出席は避けるようにしましょう。

「忌中」とは、仏式では「四十九日」の忌明けまで、神式では「五十日(祭)」の忌明けまでを言います。また仏式も神式も、故人が亡くなってから一年後の命日までを「喪中」と呼びます。

この期間に営まれる法要を忌中法要と言い、初七日からはじまって四十九日の七七日(なななのか)で忌明けとなるまで、七日おきに続けます。

現在では、初七日法要もご葬儀当日に遺骨が戻ってきたところで行うことが多くなり、途中の法要は省略されることが多い様です。

法要の進行

法要は葬儀とは違って、儀式的決まりは特にありません。読経(通常20~30分)、焼香、法話でおおよそ1時間くらいが目安です。

法要の進行例



法要の準備

1.日時を決める

葬儀の後に「初七日」法要を済ませることが多くなってきたので、「四十九日」は最初の大きな法要ということになります。

もし、当日が平日の場合は、通常直前の土曜日や日曜日に日にちを移動します。

日にちを移す場合は、「前へ移す」のが習わしになっています。

2.場所を決める

自宅で営むか、菩提寺で営むかを決めます。

菩提寺で営むときは、施主が直接出向いて僧侶に依頼します。できれば3ヶ月前、遅くとも1ヶ月前には連絡する様にしましょう。

3.参会者への連絡

法要の日時と場所が決まったら参会者へ連絡します。

親戚には電話での連絡でも構いませんが、故人の知人などへの通知はハガキか封書で行います。法要の2週間前には届くように発送します。

4.引き出物の用意

参列者の1世帯にひとつ、引き出物を用意するならわしがあります。

一般的に、シーツやふろしき、お茶など実用品が多い様です。三回忌以降の法要では、菓子折り程度のものでもいいでしょう。



10,000円コースの一例

弔事あれこれ

年回法事は一周忌以外亡くなられた年から数えます。

- 一周忌(亡くなられた翌年の同月同日) ●三回忌 ●七回忌
 - 十三回忌 ●十七回忌 ●二十三回忌 ●二十七回忌 ●三十三回忌
- ※通常は三十三回忌で「弔上げ」として区切りをつけ、それ以後は「先祖代々」の供養となります。



8,000円コース(食べきり料理)の一例

全室より海が臨めるお部屋を御人数にあわせてご用意させていただきます。



和式会場 怒涛



洋式会場 銀鱈

ご法要膳 7,000円より承ります。

※日帰り料金、サービス料・税別

- ◆遠方からのお客様が多い法要などでは、食べきりのお膳のコースもご用意させていただきます。
- ◆小人数でもお承りいたします。
- ◆さらに深い語らいのための、ご宿泊プランもご用意しております。

◇送迎バスご用意いたします。